**令和4年度大刀洗町自分ごと化会議～歴史ある住宅と城跡の未来～**

**第４回　全体協議概要**

会議概要

1. **開会**
2. **前回までの振返り（コ：桑子）**

コーディネーター振返り（コ：桑子）

* 自分ごと化会議　会議の概要と前回までの議論の内容について資料をもとに説明
  + 第1回会議振返り
    - 個人所有ということもあり、佐々木家住宅や三原城址の存在があまり知られていなかったので、第1回ではまず現地調査をした。
    - 現地を見て抱いた印象について話してもらい、主な意見は次のような内容であった。

【建物に対する印象】

* + - * 外から見ると入りづらい印象。
      * 中に入ると外の音が聞こえず、別世界のような印象。
      * 凛とした空気感がある。

【周知などに対する印象】

* + - * 町に城跡があることを初めて知った。
      * 小学校の校歌に出てくるのに見たことがなかった。
      * もっと住民（特に町の子どもたち）に知ってほしい。
    - 町の子どもたちというワードがよく出てきた。また、これまで住民に浸透していなかったこともあり、まずは地域住民に知ってもらい、住民のために活用や保存を考えていくというイメージが全体の認識であったように思う。
  + 第2回会議振返り
    - 第2回では、そもそもなぜ佐々木家住宅や三原城址を残す必要があるのか（残す意義）が主な議論の内容であった。

【佐々木家住宅/三原城址を残す意義】

* + - * 議論をする中で、委員から「大刀洗町といえば〇〇」というようなものがなく、特に新しく転入してきた人にとっては自分の住んでいる町を他の人に紹介するときに困るという話が出てきた。
      * 佐々木家住宅や三原城址が持っている歴史的な背景や文化的な価値は、本郷地区ひいては大刀洗町を形成してきた歴史でもあり、「大刀洗町らしさ」につながるのではないか。
      * 「大刀洗町らしさ」は町への思い入れにもつながる。
      * 大刀洗町は近年転入者が多い。現状でも住むことに魅力があるのかもしれないが、町らしさがはっきりしてきて、町への思い入れが芽生えれば住みたい町から「住み続けたい町」になる。
    - 佐々木家住宅や三原城址を保存・活用することで、大刀洗町が住み続けたい町になるということを意識しながら今後は議論していきたい。
  + 第3回会議振返り
    - ナビゲーターからの助言①（福岡女学院大学　非常勤講師　片岡氏）
      * 佐々木家の歴史は町の歴史である
      * 先を見越した目線で考える
    - ナビゲーターからの助言②（NPO法人まちづくりネット八女　北島氏）
      * 町並みとして面で捉えて修景
      * 多様な主体がそれぞれの得意分野を生かして協力
    - 実際に出てきたアイデア
      * １）アイデアの性質を歴史的・文化的な価値を土台にして考える
      * ２）変化の度合い（松竹梅）で考える

1. **加藤代表挨拶**

* 金融機関の社外取締役をしている。４人逮捕７人起訴の大事件があったが、その根本には「他人事（ひとごと）」があったのではないか。結局「自分ごと」ではなく「誰かが言うんじゃないか」となっていた。キーワードは「自分ごと」である。会社であっても、国であっても、地方自治体であっても。国の政治家や役人も「他人事（ひとごと）」が多いように気がする。ウクライナの戦争や、トルコの地震などについてのメディアの報道も他人事と見える。
* 大刀洗町として、佐々木家住宅をどうしていくか。様々な案を自分ごととして考えてきてくださったと思う。もっともっと発想を柔らかくしてもいいんじゃないかと考えている。
* 高松で「四国民家博物館」をやっている。４０棟ほど集めて歩けるようにした屋外の博物館である。今朝、佐々木家住宅を見せてもらったが、とても立派で残したいとも思った。一方で、あれくらいの建物であれば、世界中にいくらでもある、とも言える。「床の間に置くもの」として、文化財として保存するものでは無いのではないか、というのが私の感覚。ものは使うもの、壊れたら直すという考え方でもいいのではないか。直したり、作ったりする経験を通じてこどもも「この道具は、この形がいいのだ」などとっても勉強になる。「こどもが住宅に入ると壊すのではないか？」という考え方もあるが、一方で「壊してしまったら直そう」という発想でもいいのではないだろうか。
* 昨日の夜、懇親会の後に電話があった。友人から良い出会いがあったと。元キャビンアテンダントで、今はヨガのインストラクターとなっている方の話。京都で事業を興したが、ストレスがあり、沖縄に移住したとのこと。家も洋服も様々なものを貰って、現金を使わずに生活をしているということ。マクロで考えると、日本中にはあらゆるモノが余っている。例えば、洋服を一生買わなくてもいいといわれても、洋服自体は余っているので、こだわらなければどうにかなるのかもしれない。
* 大刀洗の件に話を戻すと、ひょっとしたら、（佐々木家住宅を維持していくことに）お金はあまりかからないのかもしれない。（日本全国の案件に関わっているが）行政がお金をかけるのが最大の問題としてできないということはあまり多くない。「みんなでやろうや」となれば、出来ることはまだまだあるのではないか。
* 構想日本を初めたころに、宮城県の山間部の方の学校建て直しに関わった。学校の建て直しには生徒たち自身が関わり、自分たちが磨いた木材をつかうなどしたそうだ。その結果、当時の生徒たちは卒業してからも学校に愛着を持っているようだ。
* また別の話だが、先日美術館の館長に話を聞いた。行政の予算は、防災や子育て、介護等々に優先してかけられ美術にはあまり振り分けられない。そこで「美術にお金をかけてほしい」というのではなく、ほかの分野に関わっていくことで、美術館をその文脈の中で活用してもらうという発想も必要かもしれない、と。
* 大刀洗町の佐々木家住宅についても、使い倒す、まずは使ってみる中で気づきが出てくるのではないだろうか。大刀洗町は町長をはじめとして、柔軟な発想が出来ると感じている。保存というよりも「みんなで使い倒そう」という発想でお考えになるのもいいかもしれない。
* ２００回以上も自分ごと化会議を行っている。合計すると関わった方は１万人を超えている。ぜひOB会を作って活動を続けてほしいと思う。参加者の２０人が会話をすれば広がる。先月も北海道に行ってきたが、横とつながってもいいかもしれない。構想日本としても出来ることはサポートをしていきます。

1. **協議（コ：桑子）**

テーマ

―佐々木家住宅／三原城址を「面」や「線」で捉えて考えてみる

―自分たちに何ができるか考える

グループ協議

Ｃ班

* コミュニティをつなぐ場所としてどんな世代の人ともかかわりながら学ぶ場所を作っていきたい。
* 農作物や広大な自然と結び付けていきたい。課題については、やってみないとわからないという話になった。

Ｄ班

* 残す方向で考えた。観光ルートのスポットのひとつとして利用したり、立ち寄ってもらえるポイントにしてはどうか。いちご狩りのツアーや酒蔵のツアーにしてはどうか。

全体討議

* 発表内容について、C班は自分たちの生活に使うことを考え、D班は他の地域から人を呼ぶことを考えた内容で対象的だった。D班では、自分たちが使うという視点での意見は出ただろうか。（コ：桑子）
  + Ｄ班：特に出なかった。エリアという視点で考えると、自分たちのためというより人を呼び込むような対外的な活用シーンがしっくりくるように思った。
  + コ：佐々木家住宅を守る会がすでにあるが、普段はどのような活動をしているだろうか。対外的な広報など人を呼び込むようなこともしているのだろうか。
  + ナ：佐々木家住宅を掃除するなど地道な活動しかない。活動を続けると、人とのかかわりが出てくる。そして地図を作ってみようとか、活動が生まれる。それが、もっとよそから人を呼び込むことが幸せなのかどうかというジレンマに陥る。教育委員会とかにいると、権限をもって人を呼ぶように取り組みもしていたが、いまの立場で取り組んでいると外からひとを呼び込むことが良いことなのか考えさせられる。地域の人たちが作り上げていく。佐々木家住宅のような住宅は全国どこにでもあり珍しくはない。だけど本郷にひとつしかないということがとても大事。継続していくことが大事である。
  + コ：D班の意見からすると、エリアで考えるという視点は人を呼び込むときに有効かもしれないが、そもそも人を呼び込むのが本当にいいのかどうかということはもう少し考える必要がありそうだ。
* C班は、グループ内の議論で対外的に人を呼び込むために活用も議論している様子に見えたが、最終的に自分たちでの利用に議論が行き着いた。その過程を教えてほしい。（コ：桑子）
  + Ｃ班：若者向けの映えスポットを考えたこともあるが、加藤さんからのアドバイスも受けて、自分たちの生活に根付いているものとしてコミュニティをつなぐ場所を考えた。いま、コロナ下で子供たちもひととのコミュニケーション、いろいろな世代と関わる機会が失われた3年間のように思うため、佐々木家住宅がいろいろな世代のひとと関われる場所になればと思い、発表した。
  + コ：D班でもあらためて自分で使うということであれば、どうだろうか。
  + Ｄ班：自分が使うとしたら、家族で集まれる場所として公園のように整備してもらえたらみんなで過ごせる場所が出来るのではないかと思う。子育てで行ける店が少ない中で、コロナ化で友達の家に集まるということも出来なくなり、場としてみんなで子供たちと集まれればいいなと思う。あと、地元の野菜を買える場所があまりないと感じている。公園として整備して、地元の野菜を持ち寄って週末だけでも出店して買える場にしていくのもいいかもしれない。いま、ふれあいセンターにゴミステーションをつくっていただき、毎週行っている。近くの農家が野菜を持ち寄って、「気持ち」として数百円を払う仕組みを回している。結構、週末にそういう場があるのは良い。
  + コ：コミュニティをつなぐ、生むというのが佐々木家住宅に求めたい機能となりそうだ。
* 皆さんいろいろなコミュニティを持っていると思うが、そもそも現状の皆さんの生活について、伺いたい。普段どのような休日の過ごし方をしているか？（コ：桑子）
  + Ｄ班：休みの日の過ごし方は、家族でイオンに行く。
  + Ｃ班：友達と天神に行く。また、友達が大刀洗公園の近くに住んでいるので、ウォーキングコースを歩きながら友達と会話をしたりする。また、夜ご飯を食べに行くこともある。
  + Ｃ班：親族とお正月を過ごしたが、孫たちと大刀洗町公園に行った。主人と二人暮らしだが、小郡にいったり、友達の家にいったりしている。
  + コ：今の話を聞くと大刀洗公園もコミュニティをつなぐ機能がありそうだ。大刀洗町公園と佐々木家住宅でコミュニティのつなぎ方にどんな違いがあるのかというのは考える余地がありそう。
  + コ：大刀洗公園だと敷地が大きいので、みんなが元々つながっている人たち（家族や友人など）と思い思いの過ごし方をする。これまで接触がなかった人とつながるということは、あまりなさそうである。佐々木家住宅だと、広さが限られるので、他の人との接触など新しいコミュニティが生まれるかもしれない。コミュニティという視点で考えると、公園と佐々木家住宅で生まれるコミュニティに差別化を図ることはできそうだ。
  + コ：また、住宅だけではなく三原城址のある林まで含めて考えると大刀洗公園のように公園としてのコミュニティのつなぎ方もできるかもしれない。
* 新しく人とつながるというコミュニティのつなぎ方について、これまでの経験を踏まえて例えばどのようなことがあるだろうか。（コ：桑子）
  + Ｃ班：自分ごと化会議としてつながることが出来た。それ以外は、今はあまり思いつかないが、何かのセミナーのように自分が興味のある分野に申し込んで新しく人とつながるというのはあるかもしれない。

町ではあまりセミナーなどを目にすることはなくて、東京・大阪・福岡などでは開催されているので、知りたいことを学びに行く。

* 先ほど、ゴミステーションでコミュニケーションが生まれるという話が合ったが、もう少し詳しく教えてもらってもよいか？（コ：桑子）
  + Ｄ班：ステーションにボランティアの人が居て、子供が届かないときに手伝ってもらったり、お菓子をもらったり、薪ストーブの前に集まって話したり、短時間でもお迎えだけでは会えないような活動をしている。毎週行くので、子供たちの顔も覚えてもらい、地元の人たちとのつながりが出来てきている。夏野菜とかを売っているときは、苗を植える体験会とか、収穫した野菜をつかってピザ会をしたりして楽しかった。ボランティアのおじいちゃんおばあちゃん世代の人と会話して帰るようになっている。
  + コ：ボランティアのおじいさんがコミュニティのハブ的な役割を果たしてくれているのかもしれない。これまでの議論の中で、歴史資料館にしたいといったアイデアも出ていたが、その時も語り部の役割が必要だという意見があった。コミュニティという視点でもハブとなる人材が必要なのかもしれない。
* 佐々木家住宅に求めるものについて話を伺う中で、ふれあいセンターだったり、大刀洗公園だったり、いくつかの施設が出てきたが、佐々木家住宅とそれらの施設を差別化するために、佐々木家住宅ならではというところを探りたい。何かあるだろうか。（コ：桑子）
  + Ｄ班：自分が何をしたいかといえば、佐々木家住宅でゆっくり話したいと思った。そのためにはお茶などが出るカフェになるとゆっくりできると思った。自宅であったり、コミュニティセンターのように、ワークスペースとしてゆっくり仕事が出来る場所にすることもいいかもしれない。なにかあって人とつながると考えると難しいなと思う。ママ同士がつながることもいいと思う。林さんのごみステーションのかかわりを聞いて、うらやましいと思った。
  + Ｃ班：ちょっとした人を集めるような企画が出来るといい。人を寄せるための何かの企画を考える。和室もいいが、庭でお茶会をするのもいいかもしれない。学童でも最初のころにお茶会をしようとしたことがあった。「小さい子供にいいだろうか？」と心配だったが、先生の言う通りにこどもたちが神妙な面持ちで取り組んでおり、新鮮だった。
  + コ：場の持つ雰囲気が子どもたちにも伝わったということだろうか。
  + Ｃ班：こども3人の年齢が離れているので遊びに連れていく場所が難しい。小さい子は公園、年上の中学生の子は静かな場所が良かったりする。上の子は敏感なので、騒音がダメでストレスになったりするので、佐々木家住宅の静かさは落ち着いた雰囲気で何かが出来そうだと思った。上の子は静かな部屋で過ごせて、下の子は公園で遊べたり、そして先ほどまで話題に出ていたように野菜を買えたりということが出来るといいと思う。日常的に忙しくて、下の子も発達の障害があったりするので、ショッピングセンターに行ってもどっと疲れる。佐々木家住宅に最初に行った時の「しずかだなぁ」というところで癒されたい。中学生の子からも「静かな場所で勉強したいから、それを今日の自分ごと化会議で言ってきて」と言われている。
  + コ：佐々木家住宅を「静」の場所、大刀洗公園が「動」野場所など、地域の中で使い分けることもできるかもしれない。
* 本郷全体をどうしたいか考えはあるか？（コ：桑子）
  + Ｄ班：本郷と言えばドリーム祭りが考えられる。近くでは、公園が一番行きやすい。こどもをちょっと遊ばせて、ベンチから見ていたり、人と話したりすることも出来る。本郷エリアであれば、この中心に集まれるような機会となるスペースがあるといいかもしれない。こどもが集まれるような学習スペースなどもよいかもしれない。既に本郷地区として、人々のつながりが強かったりするなどあるかもしれないが、外の地域から見ると、きっかけになるような場所があるといいかもしれないと考えた。

1. **改善提案シート記入（コ：桑子）**

委員からの感想発表

Ｃ班（江口）：私は小学校の3年生の時に大刀洗町に来て10年くらいここに住んでいるけど、本郷にある城址のことが全く分からなくて、3回目と4回目を通して自分が住んでいる町だけど初めて知ったことやほかの年代の方の話を聞いたりしていろいろな方法で城址を変えていけるんだということが分かったし、町民の目線や町外の目線でいろいろな意見を出し合えたことが良かった。

Ｃ班（北島）：いつも佐々木家住宅の前を通っていたが、見学ができて良かった。落ち着ける場所だと思った。皆さん、しっかりとした意見を持っており、すごいと思った。いろいろと考えをまとめながら自分の意見を言えたこともよかったと思う。大刀洗町に対して無関心なところがあったが、これから大刀洗町をもっと知ろうと思ったし、大刀洗町に対する接し方が変わっていくように思う。

Ｃ班（土山）：毎回学びが多い時間になっていて、今回は加藤さんが言われた「世界中にありとあらゆるものがあまっているので、補い合いながら生きていける」という話が印象的であった。こういう自分ごと化会議もすごくいいし、もっと他にも気軽に話し合える場所があるといいと思う。よりよい大刀洗町にしていきたいと思う。

Ｃ班（平田）：毎回楽しい。すごく刺激を受けて、いろいろなことを考えていらっしゃる方の話を聞くことが出来てうれしかった。自分の身に降りかからないと、自分ごと化って難しいなと思う。何かしらが降りかからないと自分ごととして考えられない。自分の視野を広げて、町のことや身の回りのことに自分ごと化していきたい。

Ｄ班（坂田）：前回公園の時は自分ごと化できたが、今回の佐々木家住宅のテーマはあまり自分ごとにつなげることが難しかった。もうちょっと回数を増やしてもらった方が、自分ごと化につなげられたような気がする。毎回貴重なお時間をありがとうございました。

Ｄ班（平田）：初めて協議会に参加させて頂き、どういう感じで会が進んでいくのかと思っていた。町のお役に立てればなと思っていた。会議に参加すると、考えが出てこなかったり、自分の身の回りの判断で意見を言うにしても、いろいろな意見があってそれも刺激にもなり、自分の考えを改めるような機会にもなった。評議会に参加させていただき良かった。

Ｄ班（高崎）：4回参加させて頂き、大刀洗の歴史・文化を含め非常に勉強になった。会議の時間をもっと長めにしてほしい。4回を通して、毎回バタバタしているように思ったので、15分でも延ばしてもらえると有難い。あとは日曜ではなくて土曜の方がいいかな、と思った。参加の人数が毎回減っているのが気になった。いろいろな事情があると思うが、みんながまた来たいと思うような会議にしていったらいいと思う。

Ｄ班（林）：4回とも参加させてもらい、毎回グループ討議するメンバーが違うのもいろいろな意見を聞くことが出来て刺激になった。普段の生活では、職場と保育園と家との行き返りだけでバタバタしてしまうので、こどもを切り離して個人として参加できる会がなかったので、貴重な時間を過ごさせて頂いたなと思った。もうちょっと議論出来たらまたいろんな考えが生まれたのかなと思う。まとまらないまま終わってしまった感じがあるので、まとまらないうちに「発表の時間だ」と焦ることがあったので、もう少し話し合う時間を取れたら、いろんな結論が違ってきたのかなと思う。4回を通していろいろな刺激を受けることが出来た。自分がどう動けばいいかな、と思うようになってきたので、また機会があればこういう場に参加したいと思った。

コ：町側が取り組んできたというテーマでもなく、はじめて佐々木家住宅を知る方も多く、難しかったと思う。グループ協議だけではなく第4回のように全体で話し合うこともよいと考える。

町長総括

* みなさん、委員として参加していただいてどうもありがとうございました。率直な意見を頂きありがとうございました。住民協議会に参加することをきっかけに、自分ごととして考える人が増えることで大刀洗町がもっといい町になっていくと思う。大刀洗公園のことも話題があったが、これまでの自分ごと化会議でテーマになり、ウォーキングコースなどにもつながった。また、リサイクルセンターのごみ問題についても話し合ったことがある。全部地域の方の活動である。みなさんの意見がきっと本郷の町並みを変えるきっかけになるかもしれない。なかなかこういう場がないということだったが、来週の土曜日につながりの場「ＰＬＡＴ」という取り組みを行っているので、よろしければ参加ください。ありがとうございました。

５．事務連絡

* + 委員報酬について説明

|  |
| --- |
| **メモの写真** |

 